

沿 革

北海道吹奏楽連盟の沿革は、第1次と第2次に分けられる。第1次は、札幌吹奏楽連盟・函館吹奏楽連盟・旭川吹奏楽連盟の3団体を中心に結成せされ、昭和14年7月15日、札幌市時計台で、大日本吹奏楽報告会札幌支部の発表会にはじまり、道吹連の結成となり、朝日新聞社主催の毎年の講習会を通じて道民精神の作興に寄与するところ多く、終戦と共に自然的に解散された。

第2次の北海道吹奏楽連盟は、昭和30年6月5日、旭川市の北海道護国神社境内において結成式を催し、函館・旭川の地区連盟が推進力となり、つづいて名寄・空知・室蘭・苫小牧・札幌・北見の5地区連盟が加盟し、35年度において釧路・帯広・留萌の3地区、37年度に稚内地区が結成加盟して、全道的な組織が完成した。

小学校の鼓笛隊もこれに含めて、中学校・高等学校・大学・職場・一般の広い範囲にわたり、全日本吹奏楽連盟の一翼として、吹奏楽及び鼓笛の普及と演奏技術向上に努力している。

昭和37年4月、本道における青少年、延いては道民のための健全な音楽普及の努力が認められて、以後、北海道費の補助金が交付せられ、同じく10月には室蘭市で、第10回全日本吹奏楽コンクールを開催して、全道の吹奏楽の技術向上に寄与することができた。

昭和38年4月1日、北海道青少年吹奏楽鼓笛連盟を結成し、道吹連と提携して、本道の青少年の情操陶冶・文化高揚にいっそう寄与することになった。

昭和40年10月16日、札幌市で創立10周年記念式典と記念講演会を開き、功績者42人に感謝状と記念品を贈呈した。

昭和43年は、北海道百年記念の年に当り、9月2日には円山総合グラウンドで天皇・皇后両陛下のご臨席を仰ぎ記念式典が挙げられた。この式典の吹奏楽演奏ならびに式典後の集団行事に本連盟も参加した。

昭和45年10月18日、函館市で創立15周年記念式典を行い功労者10人に記念状と記念品を贈呈した。

昭和48年4月1日より社団法人全日本吹奏楽連盟北海道支部となる。

昭和50年10月4日、北海道厚生年金会館に於いて北海道吹奏楽連盟20周年記念式典を行い、本連盟発展に尽力された個人89名、団体12団体を表彰した。

なお、記念事業として全日本吹奏楽コンクールを札幌市にて開催した。

昭和55年10月10日、北海道厚生年金会館に於いて北海道吹奏楽連盟創立25周年記念式典を行い、当連盟発展に尽力された個人25名、団体12団体に感謝状と表彰状を贈呈した。

昭和58年度より小学校の部門第1回バンドフェスティバルを開催し道コンクールも3日間で行う。

昭和60年度より第1回マーチング・バンド・フェスティバルを開催する。

昭和60年9月21日、北海道厚生年金会館に於いて北海道吹奏楽連盟創立30周年記念式典を行い、本連盟発展に尽力された個人39人、団体17団体に感謝状と表彰状を贈呈した。

平成2年9月14日、北海道厚生年金会館に於いて北海道吹奏楽連盟創立35周年記念式典を行い、本連盟発展に尽力された個人20名、及び20団体に表彰状並びに感謝状を贈呈した。

平成8年2月23日、ホテル札幌ガーデンパレスに於いて北海道吹奏楽連盟創立40周年記念式典を行い、本連盟発展に尽力された個人31名、及び20団体に表彰状並びに感謝状を贈呈した。

平成9年より、これまで北海道厚生年金会館に於いて行われていた北海道吹奏楽コンクールの会場を札幌コンサートホール Kitara に移して開催した。

平成17年11月5日、札幌プリンスホテルに於いて北海道吹奏楽連盟創立50周年記念式典を行い、本連盟の発展に尽力された個人50名、及び20団体に表彰状並びに感謝状を贈呈した。

平成25年5月、第1回北海道バンドミュージックキャンプを開催した。

平成27年11月28日、札幌パークホテルに於いて北海道吹奏楽連盟創立60周年記念式典を行い、本連盟の発展に尽力された個人94名、及び13団体に表彰状並びに感謝状を贈呈した。

令和2年度、新型コロナウイルスの感染拡大により、コンクール・小学生バンドフェスティバル・マーチングコンテストが連盟発足以来、初の中止となった。また、当年度の個人・アンサンブルコンテストが動画によるコンテストに変更となった。

令和4年3月27日、第1回北海道吹奏楽選抜演奏会をライオンズクラブ共催で札幌コンサートホール Kitara 大ホールにて開催した。